

令和6年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立桐蔭中学校

校長名：川 嵐 秀 則

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

・自ら人生を切り拓く人を育てる学校

・「文武両道」を実践しながら人間性を高め、これからのグローバル社会でトップリーダーとして活躍・貢献しようとする気概を持つ生徒

・自己の在り方生き方についてよく考え、自分自身を成長させることを意識し、地道な努力を重ねる生徒

・自主活動に主体的に取り組み、意欲的かつ自律的に努力する生徒

学校評価の公表方法

保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（ 月 日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	キャリア教育を柱として、多様な価値観を学び、国際的な視野に立って主体的に考え行動できる生徒を育てるための、中高一貫教育の充実・深化に向けた具体的な方策を確立する。	B	・国際的視野を高めるプログラムを積極的に周知し、「キャリア桐の葉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の探究的な学びと関連させるとともに、高校に進学した内進生の分析や進路への意識を高めるキャリアガイダンスなども行い、自らの在り方や生き方を深く考え、挑戦する生徒を育てる。 ・中高職員による意見交流や公開授業で課題を共有し、高い目標で自己実現を目指すための指導内容を明確にする。	・国際的な視野を高める取組の充実と積極的な周知。（生徒の参加状況） ・自らの在り方・生き方を考えさせる指導の充実（学校評価アンケート） ・生徒指導に係る情報交換会や公開授業の実施・見学の充実及び各学期 1 回の研究授業・研究協議の実施。（実施状況）	B	・国際的な視野を高めるプログラムを周知したが、実施することができなかった。 ・キャリアガイダンスは実施できなかった。 ・出前授業を積極的に活用したり、学ぶことと働くことのつながりを意識させたりするなど、自らの在り方・生き方を考えさせる指導を充実させることができた。 ・生徒情報に係る情報共有を行った。 ・中高の学年主任の会を開き、中高一貫教育の充実に資する協議を行った。 ・研究授業・協議は2回実施した。	国際的な視野を高めるプログラムに多くの生徒が挑戦するよう、積極的に周知する機会を確保する。 研究授業・協議の機会は増やすことができたが、公開授業は、より活発に実施するよう体制を整えたい。 高校に進学した生徒の情報交換については、中高学年主任会での協議も含めて、より積極的に行えるよう検討を進めていく。その中でキャリアガイダンスの実施についても検討する。
2	基礎・基本の習得と思考力・表現力の育成及び主体的な学習態度を育成するための教員の更なる指導力を向上させる。	B	・学び合い高め合う学習活動の質を高め、学んだことを活用できた喜びや達成感を感じさせ、家庭学習や研究等の自発的な学習を促す授業を構築する。 ・主体的に学習に取り組むよう、学校内外に生徒の発表や活躍の機会を多く持つ。 ・定期考査、県学習到達度調査、全国学調等を活用し、到達目標を明確にして適切に評価し、授業改善に生かす。	・自発的な学習と学習支援アプリ等を活用した家庭学習の充実。（学校評価アンケート） ・発表や対話のある授業や各種コンクール等への参加・出品。（学校評価アンケート、参加・状況） ・定期考査、全国学調、県学調等の結果分析と、PDCA を有効に機能させた授業改善の実施。（分析状況と授業の実施状況）	B	・学んだことを活用できた喜びや達成感を感じさせる授業を行うとともに、スタディーサプリを効果的に活用できた。 ・発表や対話のある授業や、各種コンクールへの参加・出品を積極的に行い、優秀な賞をいただく生徒が多かった。 ・定期考査問題の事前作成と結果分析、授業改善に積極的に取り組むことができた。	授業で学んだ内容やスキルを活用して解決できた喜び・達成感を感じられる授業研究を進めるため、研究授業・公開授業をより積極的に行う。到達目標を明確にして、授業を行うことや、定期考査問題の事前作成と結果分析による授業改善も続けて行う。また、苦手分野の克服や得意分野の伸長のため、家庭での学習や研究等の自発的な学習を促す授業づくりや学習ツールの活用を続けていく。
3	キャリア教育と有機的に関連付けた道德教育を充実させる。	B	・学校行事・生徒会行事やキャリア桐の葉の授業と関連付け、道德内容22項目の偏りのない指導を充実させる。	・キャリア教育付けたい力30と道德教育22項目の関連づけた指導の充実。（学校評価アンケート、実施状況）	B	・キャリア桐の葉の学習内容や学校行事・生徒会活動と関連付けた道德の授業を進めることができた。	道德教育 22 項目をキャリア桐の葉の取組や学校行事・生徒会活動で意識し実践する取組をさらに進める。
4	生徒の自主的・自立的な生活習慣・学習習慣の確立と集団の自治力を育成する取組を充実させる。	B	・各種アンケートを活用し、課題を抱えた生徒の早期発見に努める。また、専門家の助言を受け、生徒の自立を促す指導を充実させる。 ・専門委員会や学級会を定期的 to 実施し、学校やクラスが抱える課題について考え、解決する取組を充実させる。	・ケース会議、学校評価アンケート、人権アンケート等の結果分析、生徒への指導の充実・改善。（生徒への働きかけ状況） ・専門委員会や学級会を定期的 to 実施し、学校やクラスが抱える課題を組織的に解決する取組の充実。（取組の実施状況）	A	・生徒情報は定期的に共有し、ケース会議を適切に行った。人権アンケート、QU を活用し、学級の雰囲気や生徒の状態を把握し、積極的に指導することができた。 また、QU の活用について外部講師を招いて現職教育を行った。 ・専門委員会や学級会は、回数は少ないが、学校やクラスが抱える課題に取り組む機会は充実させることができた。	各種アンケートを有効に活用し、学級経営の改善やケース会議を円滑で質の高い協議ができるように生かしていく。 専門委員会は、回数を多くして定期的 to 実施することで、PDCA を有効に機能させ、自主的な活動をさらに充実させていく。

学校関係者評価（3月21日実施）

<授業について>

・先生方が単なる座学にとどまらない刺激を与える教育を実践されている。

・保護者からの声としては、定期考査＝過去問対策になっているとの情報があります。

<学校の雰囲気について>

・厳しい受検競争を勝ち抜いた生徒だけあって、自主性に優れ自由闊達な校風を実感できる。

<広報について>

ホームページなど情報の更新ができています。

<中高一貫について>

・高校の先生方との交流等を通して、中高一貫校のメリットを生かすための努力を重ねておられる。

・高校受験の必要がないために生じがちな生徒の中だるみを廃し、高校では外進生のロールモデルとなるよう個性を伸ばす教育をより一層心がけるべきである to 考える。

・中高一貫教育の長所を生かすべく、その前半部分の学力教育にも適正に取り組まれている。多様化する社会の中では高い学力だけが必要 to されるわけではないが、子ども達により多くの選択肢を残すためには一定の学力は維持されるべきものであり、その点にも十分配慮された教育が行われている。

<キャリア教育について>

・子ども達にとって中学生の時期は身体的にも精神的にも大きな変化を迎え、その成長に大きな影響を及ぼす期間となる。この時期は未成熟な部分を補完する社会性を修得し、漠然 to であつたとしても自らの将来ビジョンを描き始める時期に当たる。桐蔭中学校においては、キャリア教育や体験学習を充実させ、自己肯定感の強い子ども達の育成に取り組まれている。

<提言>

・生徒達のために色々なことを取り入れて挑戦してくださる学校関係者の皆様に御礼申し上げます。中学校の卒業式に参列させていただき、久しぶりに厳かな雰囲気 to 心洗われました。ありがとうございます。しかし、創意工夫が得意な生徒さんが多いし受検もないので、自分たちの卒業式を楽しく演出できるようにする時間があつても良いのではないかな to 感じました。